

福岡都市圏南部環境事業組建設検討委員会

第19回建設専門部会 会議概要

1.開催日時	平成22年3月9日(火) 15:00~17:00
2.開催場所	福岡朝日ビル 14号会議室
3.出席者	(正副部会長以外は五十音順) 松藤康司部会長、神野健二副部会長、嵐谷奎一委員、磯望委員、浦邊真郎委員 川本俊弘委員、村山博俊委員
	オブザーバー 福岡市 環境政策課 3名 春日市 環境課 1名 太宰府市 環境課 1名
4.欠席者	包清博之委員
5.議 題	1.議事 議題1 最終処分場基本計画 議題2 最終処分場生活環境影響調査

議題1 最終処分場基本計画
<p>【協議内容】</p> <p>最終処分場基本計画(案)について、下記の協議を行った。</p> <p>1. 第1章 全体計画 第1節 全体計画概要 最終処分場の主要施設として浸出水集排水施設や遮水工等についても、基本計画に記載する。</p> <p>2. 第1章 全体計画 第2節 環境保全計画 埋立作業における粉じんの飛散防止対策について基本計画に記載する。</p> <p>3. 第1章 全体計画 第3節 安全・災害対策 埋立作業計画の策定を行い作業員等の健康管理についても努めていくことを基本計画に記載する。</p> <p>4. 第2章 施設計画 1 主要施設(4) 浸出水処理施設 浸出水調整池の詳細な構造については、基本設計後に検討する。</p> <p>5. 第2章 施設計画 1 主要施設(7) 雨水集排水施設 防災調整池の計画について審議を行った。今後、防災調整池の容量等について、基本設計の中で検討を行う。</p> <p>6. 第2章 施設計画 3 関連施設(3) 飛散防止設備 廃棄物の運搬は、積み込まれた灰が飛散しないような構造の車両で運搬する計画とする。</p>

【協議内容】

最終処分場生活環境影響調査計画書(案)について、下記の協議を行った。

1. 調査の手法について

地下水

事業実施区域周辺の既存資料(地下水測定結果)を現況調査時に活用する。

大気質の粉じん

降下ばいじんの測定は、瞬時値を測定できるデジタル粉じん計を用いた測定を行う。

全般

調査手法に事業及び地域の特性を生かしていくこととする。

2. 予測の手法について

予測は、現況調査の結果に基づき、以下に示す方法により実施する。

「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」(平成18年9月環境省大臣官房廃棄物)に示された環境影響評価の項目をもとに、対象事業の特性と対象事業実施区域及びその周囲の自然的、社会的状況を勘案して、予測を行う。

3. 評価の手法について

評価は、工事の実施、施設の存在・供用において、事業計画、予測計算式等に基づき実施する。

対象事業の実施により、選定項目に係る環境要素に及ぶ恐れのある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避されまたは低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適切になされていること。

国、福岡県が実施する環境の保全に関する施策によって、選定項目に係る環境要素に関して基準または目標が示されている場合には、その基準または目標と調査及び予測の結果との間に整合が図られていること。